



# ジョウビタキの高山進出 実態の解明

飯島大智（東京都立大学 学振PD）

## 背景

- 気候変動で、低地に生息する様々な生物が高山帯（図1）に進出し、高山帯の生態系が変化している<sup>[1]</sup>。
- 2010年以降、本州中部の山地帯で、ジョウビタキが繁殖している<sup>[2]</sup>。
- 近縁種のクロジョウビタキは、欧州の高山帯で普通に繁殖する<sup>[3]</sup>。



図1 高山帯の景観

## これまでの成果と仮説

- 長野県乗鞍岳（標高3,026m）の高山帯でジョウビタキの繁殖行動を確認した。
- 富山県立山（標高3,003m）の高山帯で繁殖期にジョウビタキを記録した。
- 乗鞍岳、立山ともに繁殖期に山麓での記録がある<sup>[4, 5]</sup>。

高山帯に進出中？



Q. 既にジョウビタキが山麓で繁殖している山岳では、高山帯へも分布を拡大し、繁殖を行っている？

## 目的

高山帯におけるジョウビタキの繁殖分布の実態を解明する。

## 研究内容

山岳の高山帯の登山道に沿った踏査を行い、ジョウビタキの繁殖期の分布を解明する。さらに、行動観察や形態（抱卵斑など）の観察から繁殖の実態を調べる。野外調査は2024-2026年にかけて、以下の山岳で実施予定である。

### 山麓で繁殖期に記録された山岳（図2 ●）

八ヶ岳（標高 2,899m<sup>[2]</sup>）、木曾駒ヶ岳（標高 2,956m<sup>[6]</sup>）

### 山麓で繁殖期に記録されていない山岳（図2 ○）

富士山（標高 3,776m）、  
北岳（標高 3,193m）、  
穂高岳（標高 3,190m）、  
白山（標高 2,702m）、  
妙高山（標高 2,454m）

### 既に高山帯で観察した山岳

（図2 ○）

立山、乗鞍岳

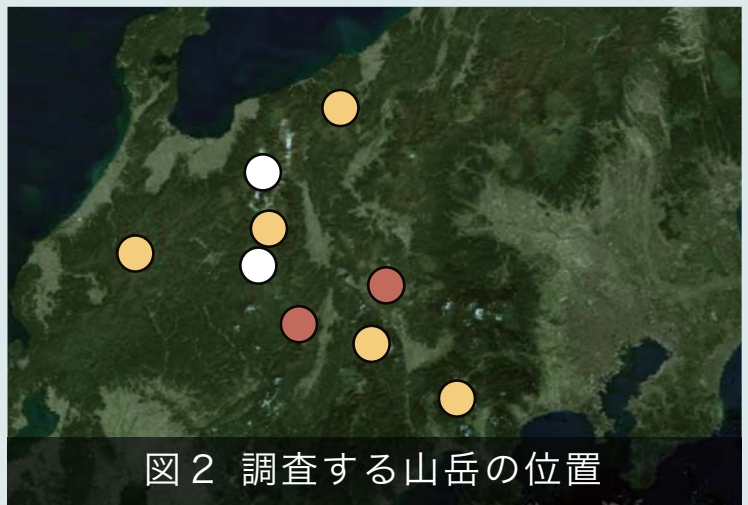


図2 調査する山岳の位置

## 期待される成果

本研究は、鳥類の山麓への定着が、高山帯への進出に寄与するプロセスを解明する初めての研究であり、山麓から高山帯への進出が単一の山岳内で起こるのか、本州中部全域の広域スケールで起こっているのかを解明できる。この成果は、高山性鳥類群集の変化プロセスの理解に大きく寄与することができる。

## 支援金の使途

皆様から頂いたご支援は、各山岳への移動費（ガソリン代と高速道路料金）および山小屋における宿泊費に使用します。本研究の成果は、学会発表および学術論文として公開します。